

ノストラダムス (1503-1566) 「諸世紀」 (第10巻72節)

「紀元1999年第7月(今の暦8月)に、天から恐怖の大王が到来するであろう。アンゴルモアの大王は蘇り、その前後にマルス(火星?)が幸運にも世界を支配する」

「闇の日の影の中で生まれたその者には、最善の雨が降る。
いにしへの王国より受け継いだ血は一新されるであろう。
銅の世界は、黄金の世紀へと生まれ変わる。」

1999年8月11日には皆既日食がある。
フランスに新しい王? 核戦争?

1999年、8月18日には、1997年(10/15)に打ち上げられたアメリカの土星探査機「カッシーニ」が地球に大接近する(地球との最接近距離 1157km)。カッシーニには72ポンド(約33kg)のプルトニウムが積まれていて、軌道がずれて、万一何かの原因で爆発でもすれば、地球は大変なことになる。

カッシーニは、途中、金星、地球、木星に立ち寄り、7年計画で土星に向かう。
地球に最も接近するのが、1999年8月18日

1999年8月18日、太陽系の9つの惑星が「グランド・クロス」(惑星の十字配列)をする。
(太陽系、十字架を形成?)
これは占星術上の位置で、実際の天体の位置はバラバラ!

歴史に IF はない。

聖書の暗号(バイブル・コード)、
ヘブライ語の聖書をコンピュータで調べると、いろいろな出来事がそこに語られていると
いうことで、例えば、日本の事では、関東大震災の事とか、広島や長崎に原爆が落とされた
事とか、あるいは、地下鉄サリン事件のことなんかバイブル・コードの中に現れる。
また、未来の事で言えば、関東大震災級の地震が、1999年9月11日~2000年の9月29日の
間に起こるとか、また、2000年~2006年の間に、第三次世界大戦、イスラエルを中心とし
て核戦争が勃発するなんて事も言われております。

2000年5月5日には、海王星、天王星、金星、水星、火星の5つの惑星が、地球から見て
太陽の反対側に一列に並び、太陽を中心に、5つの惑星と地球が綱引きをするようなかつ
こうになって、地球にも何らかの異変をもたらすのではないか。

その他、小惑星や隕石、彗星などの衝突

マヤ族の預言 アステカ帝国「太陽の石」第五の太陽の時代(今)
マヤ暦から 2012年(12/23?)に、この世は終わる

チラム・バラムの予言

「時は回る車輪。 同じ年の同じ日 同じ神々を連れ戻す
今、天上の神は告げた 全てを滅ぼす羽根の蛇の神
ケツアルコアトルが再来する時、この世は終わる」

ユカタン半島の「クレーター」

6500万年前、小惑星の衝突によって出来た？ 核爆弾 1 万個分 恐竜絶滅
イリジウム 地球外物質

小惑星 X F 1 1 2028年

ロンギヌスの槍...キリストの脇腹を貫いた槍

マタイによる福音書 2 4 章
ルカによる福音書 2 1 章
ヨハネの黙示録 16章16節 ハルマゲドン
ヨハネの黙示録 8 章11節 「苦よもぎ」=チェルノブイリ

説教「目を覚ましていなさい」(マタイ 24:36-42) 1998.11.18
讃美歌21 461(1,2) (於・共愛学園高校) 小鮎 實牧師

今年、1998年もあと1ヶ月半、段々残り少なくなってまいりました。来年はいよいよ1999年であります。で、1999年とか2000年と申しますと、いわゆる「世紀末」という事で、よく生徒から質問を受けます。例えば、「この世の終わり、終末というのはいつ来るのか」とか、あるいは「ハルマゲドン(最近、世界最終戦争なんて訳されたりしていますが、ハルマゲドン、世界最終戦争はいつ起こるのか」とか、あるいは「ノストラダムスの予言、1999年の第7の月、天から恐怖の大王がやってくる。第7の月というのは、今の暦では8月だそうですが、要するに、来年の8月に何かが起こる」というのは本当なのか」とか、要するに、世紀末に関する質問がよく出される訳であります。まあ、最近というよりは、もう大分前からですが、テレビやラジオ、またいろいろな本なんかでも「世紀末」のことが取り上げられ、いろいろなことが言われております。来年の8月11日には皆既日食があるそうですし、8月18日には、1997年(10/15)に打ち上げられたアメリカの土星探査機「カッシーニ」が地球に大接近する。カッシーニには72ポンド(約33kg)のプルトニウムが積まれていて、万一何かの原因で爆発でもすれば、地球は大変なことになるなんてことも言われております。また、太陽系の9つの惑星が「グランド・クロス」(惑星の十字配列)をするとか、まあ、これは占星術上の位置で、実際の天体はバラバラだそうですが、とにかく「グランド・クロス」というようなことも語られております。それから、聖書の暗号(バイブル・コードと言いますが)、ヘブライ語の聖書をコンピュータで調べると、いろいろな出来事がそこに語られているということで、例えば、日本の事では、関東大震災の事とか、広島や長崎に原爆が落とされた事とか、あるいは、地下鉄サリン事件のことなんかバイブル・コードの中に現れる。また、未来の事で言えば、関東大震災級の地震が、

1999年9月11日～2000年の9月29日の間に起こるとか、また、2000年～2006年の間に、第三次世界大戦、イスラエルを中心として核戦争が勃発するなんて事も言われております。また、2000年5月5日には、海王星、天王星、金星、水星、火星の5つの惑星が、地球から見て太陽の反対側に一列に並び、太陽を中心に、5つの惑星と地球が綱引きをするようなかっこうになって、地球にも何らかの異変をもたらすのではないかとか、その他、小惑星や隕石、彗星などの衝突の事とか、とにかく、色々なことが言われている訳であります。

まあ、こういうお話は語り出せばきりがないのですけれども、とにかく、世紀末、何かが起こっても不思議ではないという人間の心理なんではないでしょうか、結構、こういうお話、「この世の終わり、終末」について、関心を持っている人も多い訳であります。確かに、「この世の終わり、終末」、それは聖書にも語られている事柄であります。でも、聖書の場合は、「この世の終わり(終末)がいつ来るのか」ということが問題ではなくて、いつこの世の終わりが来てもいいような、そういう生活をしていく事を教えている訳であります。

今日の聖書の箇所は、イエス様が終末の時には、このような事が起こると語られた後、しかし、「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである」(マタイ24:36)と教えておられる所ではありますが、その日、その時は、イエス様も知らないと言うのであります。ただ、その日、その時は突然やってくる。ノアの箱舟のお話は、皆さんもよくご存知だと思いますけれども、洪水がやってくるまでは、みんな「食べたり飲んだり」して普通の生活をしていた訳であります。突然洪水が襲ってきて、はじめて人々は、これは大変だと気が付いた。でも、その時はもう手遅れ。ノアとその家族だけは助かりますけれども、他の人たちはみんな洪水に飲まれて死んでしまった訳であります。その日、その時は突然やってくる。しかし、その日、その時は、誰も知らない。イエス様も知らないと言う。それではどうしたらいいのか。イエス様が教えるのは、「だから、目を覚ましていなさい」(同24:42)ということであります。「だから、目を覚ましていなさい」。それは世の終わりがいつ来てもいいように「準備しておく」という事があります。この世の人は、いつ世の終わりが来るのか、1999年か2000年かというようなことを問題にいたします。でも、イエス様は、世の終わりがいつ来てもいいように準備しておくことを勧めるのであります。問題は、「いつ」ということではなくて、いつ来てもいいように「準備しておく」ということ。これはとても大切な事ではないでしょうか。学校なんかでは、時々「抜き打ちテスト」なんかが行われることがあります。突然テストをやるなんて「けしからん」とおっしゃる人もいますけれども、ちゃんと準備している人はあわてません。あわてる必要がないのでありますね。「準備して待つ」。これはとても大切な事ではないでしょうか。準備して待つならば、いつこの世の終わりが来てもあわてる必要はない。あせらなくてもいいのであります。こんな言葉があります。「世界の終末が明日であろうとも、私は今日、リンゴの木を植える。すべて、人間がなさねばならないことは」(ゲオルグというルーマニアの作家「二十五時」の小説の冒頭の言葉)。たとえ、この世の終わりが明日来るとしても、私は今日、リンゴの木を植える。これは、その日その日、一日一日を大切に生きることを教えている言葉であります。イエス様も「明日のことまで思い悩むな」と教えております(マタイ6:34)。私たちは、この世の終わりがいつ来るのかという事で思い悩むのではなくて、今日という日を大切に、そして、いつ「その日、その時」が来てもいいように、準備して待ちたい者であります。